

衣類のリユース・リサイクル 進まない理由と最近の動き

京都府立大学 生命環境学部 准教授 やま かわ 山川

はじめ 肇

衣類のリサイクル率は約2割（リユースを含む）。古紙やPETボトルなどと比べて、ずいぶん低い数字です¹⁾。なぜ進まないのでしょうか？

■従来のリサイクル先は縮小傾向²⁾

一つの理由は、従来の代表的なリサイクル用途である反毛とウエスが、いずれも縮小傾向にあることです。

反毛とは綿・毛などの繊維製品を毛羽立たせ、綿状の繊維に戻すことです。これまで軍手やぬいぐるみの中綿等に使用されていました。しかしこれらの生産が中国に移り、需要が減っています。また自動車の内装材等の需要も多いのですが、自動車の生産量低迷と素材見直しのため、これも減少しています。

一方、ウエスとは工場用の雑巾のことです。これも近年の工場の海外移転やゼロエミッションのための使い捨てウエスの敬遠などにより減ってきています。

■リユース輸出にも翳りが^{1,2)}

現在のリユース・リサイクルの主力は、東南アジアへのリユース輸出です。輸出先が東南アジアなのは、体型が似ていることなどによります。

しかし東南アジアの急速な発展により、この需要も落ちてきています。

こうしたことから、衣類のリユース・リサイクルを拡大するためには、現在のルート以外の再生品需要を拡大することが必要になります。

■その他の課題

そのほか、混紡などの複合素材の増加や、回収時の汚れ、ごみの混入などの増加なども問題です。もちろん市民がリサイクルに回す量が少ないこともリサイクル率が低い大きな理由です。

このように服を作る側、使う側の両方に問題がある状況です。

■衣類のリユース・リサイクルを巡る最近の動き

このような状況の中、いくつかの注目される動きもあります。

一つは国内の古着流通の拡大です³⁾。古着のチェーン店が店舗数を拡大しています（本誌p.56参照）。

2つめは新たなリサイクル用途の研究開発と企業による回収の動きです。合成繊維メーカー、アパレルメーカーに、リサイクル繊維を使い、使用後に回収・リサイクルする動きが

出ています。また綿からバイオエタノール[†]を製造する技術が開発され、実証実験が進められています²⁾。まだ大量に綿を処理するシステムの構築には課題もありますが、今後が期待されます。そのほか、繊維の風合いを生かした木材代替材料など、興味深い研究例も出てきています²⁾。

3つめは国の動きです⁴⁾。上記のバイオエタノール化など繊維製品リサイクルモデル事業への支援が行われています。「繊維製品3Rシステム

検討会」も開催され、検討が始っています。

最後に「服育」です。衣類の3Rを含む服育マンガ「その服、もう捨てちゃうの？」などの取り組みも出てきています²⁾。

■今後に向けて

このように新しい動きは出てきているものの、まだまだ厳しい状況です。それでは私たちはどうしたらよいのでしょうか？

やはり考えるべきはリデュースとリユースです。過剰な購入と早々の死蔵・廃棄を避けることが大切です。最近は1シーズンで処分する衣類も増えていそうですが、現在の厳しい状況を考えれば、そういう服は基本的に買わない、どうしても欲しいときは古着屋で、ということも真剣に考える必要があるでしょう。

私たちは、これまであまりに衣類の環境問題に無意識に過ぎたのではないのでしょうか。問題を意識すること、すべてはそこから始まります。



服育のマンガ

† バイオエタノールは植物から作られたアルコールの一種で、ガソリンと混ぜて自動車燃料として使われ始めている。CO₂の排出削減の観点から注目されている。

参考文献

- 1) 岩地加世:「衣」との付き合い方—これでいいの? 衣類のリサイクル—、廃棄物資源循環学会誌、第21巻、第3号、pp.132-139 (2010)
- 2) 木村照夫:衣類の消費と廃棄・循環の実態と課題、廃棄物資源循環学会誌、第21巻、第3号、pp.140-147 (2010)
- 3) (株) ウェッジ:首都圏急接近 衣料品リユース業に秋波を送る面々、WEDGE、2010年6月号、pp.36-38
- 4) 所 昌平:新段階の衣料品リサイクル、廃棄物資源循環学会誌、第21巻、第3号、pp.157-168 (2010)